



# 鴻文会会報

第 3 号

発行・鴻文会

753 山口市吉田1677-1

山口大学人文学部内

電話(0839)22-6111

(内線) 808

郵便振替口座

下関0 - 15902

## 鴻文会の皆さんへ

鴻文会名誉会長

岩 城 秀 夫

会員の皆さんにはお元気で過ごしのことと存じます。鴻文会の御発展、慶賀に存じます。最近耳にしますところでは、皆さんの御活躍の舞台が日本ばかりでなく、世界各地へと拡大しているようです。近くは中国から遠くは欧米その他の地域での消息を、しばしば聞くようになりました。このところグローバルということばが、よく使われるようになっていますが、会員の皆さんが世界各国へ、留学であれ、出張であれ、数多く出かけられて、多方面に亘る活躍をなさっているのは、非常に喜ばしいことと思います。

私が山口大学に赴任して来ましたのは、二十数年も前のことになりましたが、その頃の文理学部文学科は、小じんまりとした雰囲気の中に、安住しているような感じでした。それが次第に発展し、教官の在外研究も活況を呈するようになりましたし、卒業生の海外雄飛も、増加の一途をたどっているようです。

言語を異にし、思考形式もちがう人々と、数多く接することが、視野をひろげる上で大切なことは申すまでもありませんが、それは日本を、日本人を客観的に見直すことにもつながります。私の若い頃には、そうした機会に恵まれることが、大そう乏しかったのですが、今では気軽に海外に出かけられるようになりました。羨しい限りです。

文学科が人文学部に改組されてからは、毎年百八十名の卒業生を送り出していますので、現在約二千二百名の会員が数年後には三千名を突破します。

会員の数がふえるに伴い、どこかの国のある街角で、ふと出会った同窓生が、山口の地を懐しみながらグラスを傾ける、そうした情景がさして珍しいことでなくなるように思います。私の経験から申しましても、先般学術交流の為に短期間中国を旅行しましたが、北京のホテルのロビーでは、嘗て私の講義を聴いたことのある若い友人に、また西安の大学では同学の友と会いました。いずれも全く予期しない奇遇でした。そうした時に交錯する驚きと喜びは、たとえようもないものです。

会員名簿の編集整備も続けられています。常日頃から同期のみでなく、先輩後輩の親密な交りに心掛けられて、思わぬところでの出会いを期待されるのも楽しいことと思います。皆さんの御発展を祈ります。

(人文学部長)

# 私の中の山大・山口

## 私と山大

木村 愛 昭

(英米文学・文理第一回卒業)

私が山口大学に入学したのは昭和二十四年第一期生としてであった。そして二年後、ためらうことなく英米文学科にすゝんだ。

卒業以来三十年以上経って往時をふり返る時、若干の感慨がないわけでもない。人生行路の上の一、二の転機ともなったことどもをここに見出すからである。

中学(旧制)時代、数学、英語ともに苦手中の苦手というところで止まらず活路を国語に求めて広島高師(現広島大)国語科を受験したのがその前年のこと。同時に受験した地元の高校(旧制)にも奇蹟的?に合格してみても、当時、戦後間もないころの経済・食糧事情から、公務員家庭の長男としては地元を学校を選ぶことになったのは止むを得ぬ事だった。

入学してみると第一外国語の英語は過十時間以上一年物故された田中美輝夫先生には、「クリスマス・キャロル」を教わった一となる

ときさすがの英語嫌いも少しは英語に親しむことに慣らされてくる。すると人間は欲が出るもので、若気のいたりも手伝って少々野心が生れ、将来国語の教師になるにしても少しは外国語が読めるようにしさらに外国語が読めれば文学の上で巾がでてくるかもしれない。ということで冒頭の如く、昭和二十四年新制切替時、地元大学にすゝんだ私には、こゝは自分に英語を読む力をつけてくれるところ。いわば国語教師への道一又より広い文学への

道の「より道」という考えが強かったことは否定出来ない。

従って英語の勉強といつてももっぱら読むことのみ。英会話の横山先生から「君の英語はドイツ語訛が強いね」とからかわれた?記憶が今はなつかしい。授業の方も単位、成績は全く念頭になく、本修の英文英語学以外、ドイツ語、国語、哲学などんぐく出かけて

いた。中には上田敏先生の講義の如く受講申込みをしないまま、半年間欠かさず出席、一番前の席に陣どって先生の毒舌?に耳を傾けたり、緒方先生の単位外の「マルコ伝講読」に出るため、今はない経済学部校舎のうす暗い教室に通ったこともあった。旧銃器庫を改裝し鉄の棧がはまったま、の小西先生のお宅にお邪魔しうかがったのは斎藤茂吉や他のアララギ歌人のことであった。

当時の文理、経済、教育各学部の校舎はすでになく、岡崎主任教官を始め地の諸先生方も小西先生を除いて殆んど故人となつてしまわれた。

国語やひろく文学に対する関心は今も失われることなく我が心中にあるが、山口大学で得た英語との結びつきは後輩の人々との交友も含めて自分を支える支柱となっている。



昭和43年頃の山口大学吉田キャンパス(現在の野球場が向う)

今の私の机上には「蕪村句集」とならんでJ・ジョイスの「ダブリンの人々」の原書がおかれている。

(山口高等学校教諭)

## 山口での学生生活

協 正 典

(国史学・文理第十七回卒業)

四年の夏休みに平川へ移転したので、私達が後河原キャンパスでの最後の学年となった。経済学部は美術館、教育学部は市役所、鳳陽寮は教育会館といずれも様変わりしているが、文理学部は図書館が建った以外は、県関係の役所として現在もそのまゝ、残っている。新しい県庁ができ上ればいずれ失くなるのであるが…。

一年の時は家より通学していたが、マンドリンクラブが忙しくなったため、二年から山口へ下宿した。高級住宅地である東滝で、知事公舎の二軒前の通称(自称)東滝マンションであった。家賃は六帖二千円で、今と比べれば勿論だが、その頃でも他都市と比較して大変安い所であった。

文理の食堂は、東門側の建物で、薪で米を炊く古い形であったが、それだけにおいしいごはんであった。入学当初、定食は五十円であったが、夏休みあけには七十円となり、順次値上りしていった。夕食は、後河原から少し街中へ入った「二茶」という所で食べていた。「万画」の方が量が多かったが、小ざっぱりした方を選んでいった。ちよつと金のある時は経済学部武道館前の「クルミ」でランチを食べた。何か心豊かな気分になったものだ。大阪から帰郷した若い夫婦の店であった。今は

火事と道路改修のため、道路反対の図書館側へ移っている。

夜は市民館の反対側にある「扇」というスナックで、コークハイを飲んでみた。最近あまりみかけないが、当時はシングル、ダブルと小さなコップで量を決めていた。スナックの方はマンドリンクラブの友達が行ったが国史の友達とは、金龍館裏の「一八」というおでん屋で、夜遅くというより明け方まで飲んだものだ。今でもおいしいおでんであったと思う。

食べることばかり思い出すのは、喰意地のはっていない私としては不思議であるが、当時は食べることが、生活の中心であったのだろうか。

国史の同学年は六人で、各々がクラブに入り、よく遊び、又、それなりに勉強していた。ただ心残りには、途絶えていた国史の研究誌、「二里塚」を発行できなかったことだ。原稿が一部集まったものの、予定数に達せず、印刷までに到らなかった。今はどうなっているのだろうか。是非頑張つて出してもらいたいものだ。

(学校法人協学園松崎幼稚園副園長)



現在の人文学部キャンパス

# 我が山口大学時代

佐藤 俊 英

(ドイツ語学ドイツ文学・文理第二十九回卒業)

日々があまりに速やかに過ぎていく。暦を繰るごとに月日の経つのが早いことに驚かされる。現在の仕事に忙殺された日々の中で学生時代を懐かしく思い返すことなど久しくないことだった。

「ドクブンゴウカクオメテトウ」——七年前の早春、待ちに待った可否電報は果して神よりの福音であったのか、或いは悪魔からの呪詛であったのか、私は複雑な思いを抱いて山口大学に入学した。元

来、語学というものを嫌厭していた私がドイツ語を専攻するというとは思ってもよらぬことだったからである。しかしながら、ドイツ文学にも横書でアルファベットの「ドイツ文学」と縦書で日本語を「ドイツ文学」とだけと聞くと、私は後者があることだけを頼りに独文研究室に籍を置くことにしたのであった。

とは言うものの、現実にはドイツ語に苦しめられた。だから早くドイツ語から逃れたいという気持ちは私に限らず誰もが持っていただろう。三年生の時、中野先生がドイツ語学演習でニーチェの「反時代的考察」の講義を開かれていた。前期はまずまずの盛況ぶりであったが、如何せん、ニーチェといい、「反時代的考察」といい、難解晦渋の感が強く、後期に到ると講義を取ったのは私を含めてわずか三名であった。この三名もまた授業に出たり出なかつたりで、全員が揃うの

も月に二度を数えたであろうか。時には先生と学生の一对一の授業があったり、学生が出て来ずいつの間にか授業が流れたりであった。そうした中でドイツ語に愛着だけを持つ三名はろくに予習もせず、たどたどしくドイツ語を読み、大学図書館にある「ニーチェ全集」第四巻を借りて来ては堂々とそれを読みあげるのであった。(しかしこの訳は実に難しくドイツ語で読んだ方がよくわかるようであったし、また難解な熟語が多く出て来て、ドイツ語の授業であるにもかかわらず独和辞典よりは漢和辞典の方が必要であった。)

このように語学に苦しめられながらも、ドイツ文学を学んだことは私にとってかけがえない宝物となった。それに加えて、山口という心安まる町で学べたということも忘れられない思い出となっている。

(岡山県立至道高等学校教諭)



鴉流狂言上演 (大学祭)

## いま山大・山口は

### 人文学部研究室紹介

#### 考古学研究室

考古学研究室は、まだ卒業生が昭和七年、五八年と二回果立ったばかりの新顔です。よろしくお願いします。

第一回卒業生と第二回卒業生は、下関市伊倉遺跡の発掘で、同じ釜の飯を喰った仲で、第一回生九名、第二回生七名が西日本一帯にかけて現在活躍しております。卒業後も発掘調査にあたっては半数近くいます。五八年度の在学生は二年生一〇名、三年生七名、四年生一二名で、卒論は弥生時代に関するものが多



#### 軒丸がわら2片出土

##### 7世紀の寺院跡埋蔵

7世紀前半のものと思われる軒丸がわらの破片(下)が出土した光市の岡町遺跡 (七村室積)

考古学研究室の活躍を伝える中国新聞

い傾向にあります。研究室の開設以来と

りくんでいます伊倉遺跡と松尾遺跡の正

報告書も、皆んなで何とか刊行をと頑張

っています。

教官は、研究室の開設にあたられた鈴

木博司教授が昭和五七年三月退官され、代

って近藤喬一教授と新たに中村友博助教

授の二名となりました。鈴木先生の担当

であった金石文学は近藤が、洋書講読は

中村が担当しています。五八年度の特殊

講義として近藤が平安時代の古瓦につい

て、中村が弥生時代の文化について開講

しています。それと近藤義郎先生(岡山

大学)が秋に集中講義を実施されます。

バラバラの状態で出土した土器は、き

れいに修復が完了し、皆様との再見をお

待ちしています。

(中村友博助教)



言語学研究室風景

言語学研究室

フレッシュな言語学研究室の模様を卒業生の皆様にそのままお伝えできれば幸いです。さて言語学研究室は人文学部の発足と同時に出発した新しい研究室です。伝統こそありませんが、それだけに無限の（少しお聞きさなので「大きな」ぐらいにしておきます）可能性を秘めた研究室と言えます。卒業生もやと二回目を送り出したのですが、それでも企業は勿論のこと、公務員、教員（英語、国語）、大学院での研究というように幅広く活躍しております。英語の教員になったものもいれば、国語の教員になったものもいる。この辺に私達の研究室の特色が現れているのかも知れませんね。過去二年の卒業論文では、日本語、英語を中心としたものが多いのですが、いずれそれ以外の言語に取りくむ学生も出てくるかもしれません。これからが楽しみです。

学生は一学年十名、全部で約三十名です。男女ほぼ半数でとてもなごやかに勉強しております。

昭和五十五年の四月に赴任された柏木英彦教授は今年（五十八年）の十月から金沢大学で教えられることになりました。創成期の苦勞に感謝し、今後のご活躍を祈りたいと思います。研究室の授業としては言語学概論、特殊講義、演習などがあります。一緒に赴任した平野尊識は日本語、日本周辺の諸言語、（特にフィンランド）、音韻論に興味を持っており、特殊な言語として過去にタガログ語、満州語（文語）を演習でとりあげたことがあります。（自己PR）。

特別寄稿  
中国雑感  
山本英史  
（東洋史学助教）  
私は、本学と中国山東大学との提携により実現した第一回交換留学生として、昨年二月より一年間、山東省の済南という街で暮らす機会を得ました。そこでの生活で得た体験は日本人の「常識」を覆すに充分なものがありました。ここでは、その一端として、「中国の水」について述べたいと思います。日本人が外国に行くとき、水の有難さが改めてわかると思います。中国とてその例外ではありません。いったい水というものは、我々日本人は、どのくらいの価値に思っているのでしょうか。俗に「湯水の如く」というように、湯も水もいつでもどこでも手に入るもの、また水道から直接飲めるものという観念があるようです。ところが、中国、とりわけ私が暮らした済南は、冬場はほとんど雨がなく、非常に乾燥しており、それゆえに、水はまた貴重存在なのです。

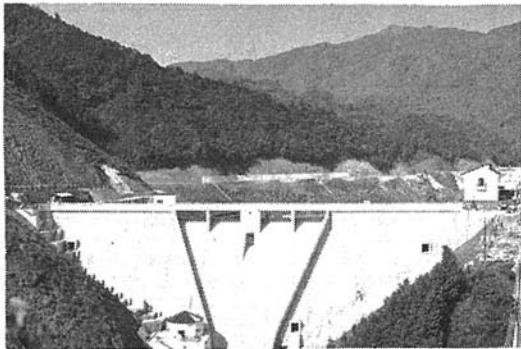
中国の人々は、入浴に関してまことに無頓着です。内風呂をもっている家庭はほとんどなく、共同のシャワーがあるだけです。ただそのシャワーさえ、毎日利用する人は何人いることでしょうか。銭湯なるものも街にはありますが、それは美容院と同じ存在と違って下さい。夏場、大学のプールには、どういうわけかみな石鹸とタオルをもってでかけます。「五日間入って贅沢ですよ。私なんかもう半月お風呂に入っていない。」これは、山東大学の某先生の言でした。水はあくまで飲むためのものなのでしょう。驚くことは多々あります。中国にとって、水とは飲んではいけな液体、沸騰させて始めて飲めるものという事です。これは、前から聞かされていましたが、中国で生活して、改めて「日本の水は、飲料」という貴重な役割を果たす魔法の水だったという事を知りました。生活を始めたばかりの時、済南の水の石灰分の多さに悩まされました。そのまま沸して飲むと特有の臭いがします。なにゆえ中国の人々がジャスミン茶を好むか、わかるような気がします。だから、まずフィルタで水を濾過し、それをやかんで沸して飲むことになりました。それでも、二、三ヶ月すると、そのやかんの内側には石灰が層になってこびりつきます。胃の中もこんなものかと思うと、ゾッとすると、日本人にとっては恐ろしい水なのです。

済南の別名は「泉の都」だそうです。市内のあちこちに湧き水があり、それらが集まってできた大明湖には、李白らが酒をくみかわした建物も残っています。どうして、こんな街が「泉の都」として讃えられるのだろうか。と思いついて半年、南方の旅行から帰ってきた、その理由がわかりました。済南の水は色が、有味、不透明の三拍子がそろっているばかりでなく、とりわけ臭、こけが腐ったような水しか飲めなかったのにはへきえきしました。そんなひどい水でも中国の人々にとっては貴重な「水」なのです。日中国交回復に際し、中国は、近代日本が中国に対してとった蛮行の数々について、その一切を水に流してくれました。しかし、それに用いられた「水」は、日本で考えているそれと果たして同じものなのでしょうか。山本氏は、昭和五十八年六月に締結された山口大学と山東大学との「学術交流の協定」に先立って、五十七年二月から一年間、「研修生」として中国へ留学なさいました。



山口点描

青春をすごした思い出深い山口の街を、ペンとカメラで紹介する「山口点描」その二は東鳳翽登山の今昔をスケッチしてみたい。若かりし頃、木町・天花・ニッ堂を経て、「東方便山」をめざした山大生は多かろう。酒瓶を肩に、秋冷の中、まだ夜も明けきらぬに登頂した猛者がいた。膝までの積雪をおして冬山にいとみ、飯盒炊さん、合ハイを名目とするほのぼのとした登山もあった。その一方で、山頂から見下ろすちっぴけな山口の街並みに、悩みを解消した多感な青春時代もあった。新入生歓迎といえど登り、大学祭の打ち上げと称してはまた登った。履かずもがなの「キヤパンシューズ」スタイルに、他愛もなく心躍りをおぼえたものだった。出会いがあり、別れがあった。昭和四十年代前半までの後河原の時代、我々には、「東方便山」はこよなく身近かな山であった。私なども卒業までの四年間に、七回登ったが、それとも果して多い方であったかどうか。かの山は様々の青春群像を包みこみ、今も山口盆地の北に「そびえて」いる。頂上付近のスロープは、四季折々に色合いを変えるが、十二月の今は土色である。



一の坂ダム付近にて



山頂より山口市街をのぞむ

た。眼下の旧道に人影はなく、夕やみの中にひととき寂しげであった。そういえば、ダム完成後、一度も「東方便山」に登っていない。

鴻 文 会 第 3 回 役 員 会 (57. 5. 21)

- 昭和57年度事業報告  
 57. 5. 8 第2回役員会  
 5. 26 山口大学日中学术交流奨励会発起人及び設立総会出席 (大塚副会長)  
 12. 30 「鴻文会名簿1982年版」発行  
 58. 1. 15 「鴻文会会報第2号」発行

昭和57年度収支決算書

収入の部

科 目	当初予算額	決算額	比較増減	摘 要
繰越金	1,109,479	1,109,479	0	前年度より繰越金 ※
会費収入	1,300,000	1,855,000	555,000	5,000円×371人
名簿売上収入	—	1,000	1,000	「鴻文会名簿1982年版」一冊
雑収入	—	6,054	6,054	預金利息
合 計	2,409,479	2,971,533	562,054	

※昭和58年3月31日までに払出したもの

支出の部

科 目	当初予算額	決算額	比較増減	摘 要
会 議 費	56,000	18,000	38,000	役員会 (57. 5. 8) 役員車代16,000円 (市内 2,000円×5 + 市外 3,000円×2) 同茶菓子代 2,000円
印 刷 費	242,200	908,040	△ 665,840	名簿作成用案内状、葉書、封筒印刷72,000円、名簿送用封筒印刷 (2,000枚) 16,000円、名簿印刷作成費 (2,000部) 720,040円、会報印刷作成費 (2,300部) 100,000円
郵 送 費	582,080	805,190	△ 223,110	役員会案内状往復葉書 1,040円 (80円×13)、名簿作成用住所等確認用切手 180,000円 { 108,000円 (60円×1,800) + 72,000円 (40円×1,800) }、名簿用書留郵便 (印刷所へ) 720円、名簿代支払用振込料 400円、名簿、会報郵送料 622,620円 {462,000円+157,500円+3,120円 (外国便)} その他現金書留郵送料 410円
寄 附 金 費	50,000	50,000	0	日中学术交流奨励会
謝 金 費	90,000	85,000	5,000	名簿作成用宛名書アルバイト30,000円、名簿、会報送宛名書アルバイト35,000円、幹事用謝金20,000円
雑 費	16,000	24,160	△ 8,160	写真アルバム2冊 960円、名簿作成用 (字部) 交通費 4,760円、名簿、会報写真代 2,240円、文房具 1,600円 (ボールペン 150円+スタンプ台 500円+のり 950円) 現金封筒 100円、会費返却 2名10,000円、30年史購入金 4,500円
予 備 費	1,373,199	0	1,373,199	
次年度への繰越金	—	1,081,143	△ 1,081,143	
合 計	2,409,479	2,971,533	△ 562,054	

昭和58年5月21日監査の結果過誤なく適確に経理されていることを確認します。

監 事 森 田 良 吉 ㊟  
 行 村 和 男 ㊟

昭 和 5 8 年 度 事 業 計 画

- 58. 4. 28 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会和田敏英会長出席
- 5. 21 第3回役員会
- 12. 17 「鴻文会会報第3号」発行

昭和58年度予算

収入の部

科 目	58年度予算額	57年度予算額	比較増減	摘 要
繰越収入	1,081,143	1,109,479	△ 28,336	新入生 5,000円×179、卒業生 5,000円×151 預金利子ほか
雑収入	1,650,000	1,300,000	350,000	
雑収入	55,000	—	55,000	
合 計	2,786,143	2,409,479	376,664	

支出の部

科 目	58年度予算額	57年度予算額	比較増減	摘 要
会議費	29,000	56,000	△ 27,000	役員会 (茶菓子代 3,000円+車代26,000円 (市内 2,000円×10+市外 3,000円×2)) 会報 (2,500部) 120,000円 役員会 (5. 21) 出欠往復葉書 1,200円、会報郵送料 120,000円 (60円×2,000) 日中学術交流奨励会 会報宛名書等アルバイト35,000円 (3,500円×10) 幹事用謝金20,000円 会報発送用封筒 (2,000枚) 7,000円、 文房具 2,000円、会費未納印 2,000円、電卓10,000円
印刷費	120,000	242,200	△ 122,200	
郵送費	121,200	582,080	△ 460,880	
寄付金	50,000	50,000	0	日中学術交流奨励会 会報宛名書等アルバイト35,000円 (3,500円×10) 幹事用謝金20,000円 会報発送用封筒 (2,000枚) 7,000円、 文房具 2,000円、会費未納印 2,000円、電卓10,000円
雑費	55,000	90,000	△ 35,000	
雑費	21,000	16,000	5,000	
予備費	2,389,943	1,373,199	1,016,744	
合 計	2,786,143	2,409,479	376,664	

業 種	昭和五十七年度		昭和五十八年三月三十一日	
	卒業者数	就職希望者数	進学者数	就職者数
農・林業			7	1
漁業・水産業				
建設業				
製造業				
卸売業				
小売業				
金融業				
保険業				
証券・商品取引				
運輸業				
電気・ガス・水道				
マスコミ				
新聞・出版				
ラジオ・テレビ				
求人・就職(内定)決定者数			7	1
就職希望者数			148	162
決定数				

●五十八年十月末までの会費の納入者数は、卒業生五七五名、新入生三二一名となっております。

●会費未納の方は、至急お納め下さいますようお願い致します。

終身会費(五、〇〇〇円)  
郵便振替口座下関〇一五九〇二  
加入者名 鴻文会

~~~~~  
**編 集 後 記**  
 ~~~~~  
 ○どうか、御要望に沿って、十二月中に3号をお送りできました。会報担当の岡光、佐々木両幹事の長期出張で、なれないピンチヒッターの編集係。2号のめざましい企画を受けつぐのが関の山で、新機軸はほとんどなし。  
 ○昨年、鴻文会も、他の同窓会とともに「山口大学日中学術交流奨励会」に加入いたしました。が、交流の一端を、山本先生の中国留学の御報告の形でお知らせいたします。  
 ○会員の異動をお知らせ下さい。(S)  
 鴻文会名簿を充実させたいと思います。(S)

合 計	就職率 79%		情報処理業	
	公務	非営利的団体	医療保健業	広告・観光業
118	7	28	2	5